

撮監脚
影督色
者者者

唐長山
澤尾下
弘史秀
光氏綠一氏

盲目的の男乞食徳
村の銀屋阿彌おさ
村の宿屋鶴九郎
村の娘みすゞ
同小笠

村の桶屋彌九郎
村の娘みすゞ
聖者 小笠
【略筋】或に村に聖者が現れ村人の不具者を帝に
入れた。靈泉に依り直しの上で人々が其靈験を恐
受け明るい。その村に居た夫婦は帝の御子を産
しい夫婦妻よき信じて居た二人は餘りの醜さ相
手を見、相別れて徳は銀治屋へおさびは百姓屋
す、却つて眼のあいた事を悔ひ以前自分會
の起伏した村の社の床下に戻つた。其處で曾会
した二人は互ひに離れ難い愛着を感じ昔の様な
夫婦仲となつたが聖者が叛いた二人はまた盲目

（三月廿八日、大阪映畫俱樂部）——山本綠葉
さなづつた。村人の願ひで再び聖者が彼等に功德を授けんとした時、徳は聖者たる時の幸福だよと叫び、おさび博士共に之に従へて立去つて行つた。背で坪内博士が諷譯したのであり、河合武雄、東儀鐵笛一派が東京新富座で上演した事のある、アイルランの詩人シンガの「聖驗」を演繹するものである。さすがに原作が優れて居るだけに見應へがあるが原作の持つ鋭い諷刺はどうしても味へない。單なる喜劇として筋を運んで居るに過ぎない。唯監督が有名な所である爲に監督がかなり苦心をして居る。その点では充分にあらはれて居る。俳優では好之助氏の徳も裕美喜美子娘のおさび共に相當な出来を示し、まづ全體として無難な作品である。